



JCNA通信 第28号

発行日 2020.8.31
発行人 山口 郁乃
編集人 藤井 智恵美
創立 1957 (S32) 年

このコロナ禍で ～ JCNA 会長からのメッセージ

山口 郁乃

JCNA 会員のみなさま、お元気ですか？

新年には思いもしなかったことですが、新型コロナウイルスが世界中を不安、恐怖に陥れています。75年前の広島、長崎の被爆に関心を持たなかった人々であっても、今は「死」と「差別」をもたらす感染症には敏感になっているでしょう。

ペストやコレラ、天然痘、・・・人間はいつも伝染病の撲滅に力を注いできました。また「呼吸器感染症」でしたら「結核」こそ長く人類を苦しめてきた病気です。それが医学の進歩のおかげで長期の療養や手術をしなくても治る病気になった今の、この事態です。

感染する病気は人間の関係のありかたに強い影響を及ぼします。

向き合えばいのち流れる、理解しあえるのにその近さが断たれる。つらいことです。こういう時、医療介護の現場、そして身近なところで奉仕されている方々に深く敬意を表します。

本部は新潟支部と協議の上、第60回全国大会 in 長岡を2年延期しました。

何より、JCNAの動きが長岡の人々に、また各支部会員とご家族に災いを及ぼさないよう、考えた結果です。ご理解賜りますようお願い申し上げます。

日本カトリック看護協会 鹿児島支部

顧問司祭 小隈 憲士 様から 鹿児島支部の方々へ送られたメッセージです。

JCNA 会員のみなさまにも分かち合えればと、転載許可を得ています。

病む人の傍らにいるあなたに

鹿児島で働くカトリック看護師の皆様

そして、今は現役を退かれたカトリック看護師の皆様

現役の皆様は、大学病院、県立・私立病院、医師会病院、民間の大規模な総合病院、中規模の病院、そしてクリニック、また、老人福祉施設や介護施設など、さまざまな場で看護の医療専門職者として、日々生きておられます。

私は、皆様の、その献身的な働きに敬意と尊敬の念を抱いています。

さて、今年に入ってから新型コロナウイルスの感染拡大は、3月11日WHO（世界保健機関）によって、パンデミック(全世界的流行病)と認定されました。私たちは今、公衆衛生上の緊急事態の只中に

います。

6月中旬で、世界では約800万人の感染者がいて、亡くなった人は約43万人です。日本でも感染者は約18,000人、亡くなった人も約950人います。

メディアが報じるのは、感染者、死者の数ですが、その一人一人にその人の人格を表す名前があり、何よりも愛する家族があり、人間として尊厳をもつ、かけがえのない大切な存在です。

なのに、ウイルスに感染して、重篤状態となり、亡くなる人の家族が臨終に立ち会うことすらできず、愛するその人の死を悼み、葬儀をして弔うことさえできない状況で、死別にとまなう深い悲しみと魂の痛みを世界中で多くの人が味わっています。

いろいろな疾患で、入院先の病院で最期を迎える人の傍らで、多くの時間を費やし、その人とかかわるのは、看護師である皆様です。

看護の専門職に誇りと使命感をもち、経験を重ねながら、その職を生きることは、肉体的にはもちろんのこと、ご自身の感情（こころ）を必要以上に消耗する厳しい職です。が、しかし、ご自分ではお気づきにならないかも知れませんが、あなた方は病む人の心身の痛みを想像し、共感する能力に長けていると思います。

何よりも、キリスト者としての信仰をもつ皆様には、憐れみ深い父なる神様から賜物として特別な恵みが与えられている、と信じます。

昨日まで当たり前だと思っていた「日常」が、今日は思いもかけない「非日常」へと変わり、それに生きることを強いられ、明日のことが分からなくなってしまった時、私たちは恐れと不安を抱きます。

新型コロナウイルスの感染拡大が全世界でまだ続いていて、終息する見通しが分からない状態で、多くの人が恐れを抱いています。

「恐れ」は、私たちを大切な人とかかわりから引き離してしまい、自分のことしか考えられない生き方を選ばせます。

公園で夢中になって遊んでいる幼い子供が、母親を見失って、恐れと不安から泣き叫ぶ姿に似て、私たちは言い知れぬ不安や恐れを抱いています。

しかし、信仰をもつ私たちは「恐れることはない」と言う、主キリストのみ声を試練の中で、これまで幾度となく聴き、壁を乗り越えてきました。

そんな私たちは全世界の人々と共に、今、世界が抱えるさまざまな痛み、傷ついたところと向き合い、希望と喜びに向かって生きるように求められています。

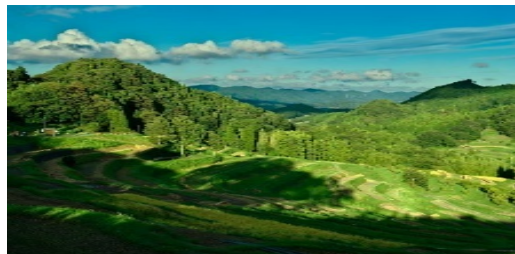
世界（つまり、私たちが生きるこの世）は、神様のものです。何も恐れる必要はありません。

神様に信頼し、それぞれが託された使命を忠実に生きることこそが、人と人とかかわりを損なうことなく、確かな希望を築く力となります。

皆様は、その職を生きることによって、私たちが弱さをその身に負いき、そして、死ぬべき「生」の運命を超えられるのは、愛を生きる私たちのこころと、人と人とかかわりの大切さであることに気づいています。

病む人の傍らにいるあなたが、もう一人のキリストであるために、神様がその働きのうえに豊かな祝福を与えて下さるよう心からお祈りします。

2020年6月19日





支部通信

鹿児島支部 22 松村 精子

夏火山 封じ込めたし コロナ菌

鹿児島県の南端の与論島では、コロナ感染が拡大している。この小さな島では誰でも濃厚感染者になりうる。来島自粛を呼びかけ、島は不安と戦っている。1日も早く落ち着く事を祈る毎日であります。それぞれの地域でそれぞれに大変と思いますが、この小さな島の平安が戻りますようお願い下さい。

美しき島を コロナ禍襲う 半夏生

鹿児島支部 Sr.澤 ヤエ子

“主キリストの平和がありますように”

鹿児島支部は小さなグループで、高齢者が主に細々と活動しておりましたが、新型コロナウイルス発症から、支部活動が益々できなくなりました。主な活動は鹿児島教区内の小教区を巡回して「健康相談と血圧測定」をしながら信者さんとの交流を深める活動していただきましたので、小教区のごミサが非公開になり巡回が出来なくなりました。そのような状況の中で少ない会員が一同に直接顔を合わせることが出来なくなり、お互いの通信手段はグループラインとPCのメールを介して近況を分かち合っております。この感染症の発症からお互いに共有していることは、カトリック中央協議会発行の祈りをささげることです。終息に向けて祈り続けたいと思っております。

(2020年7月25日)

大分支部 阿南幸子

我が小さな街にもコロナ感染者が2名発症しました。東京から通う30代の勤務医とその病院の患者です。病院関係者及び他の患者105名の検査結果は全員陰性だったのですが、2週間後、80代の入院患者が陽性に、現在重症化しているとの事です。身近な医療機関で起きた事です。小さな地方の街ですので行政も住民も大変なことです。

大分支部は2/23日の活動を最後に電話での連絡、情報交換のみで支部活動を休んでおりました。6/6,7日に予定しておりました支部主催の合同黙想会も今年度は中止としました。

7/19日に5ヶ月ぶりに4名の会員が集まりました。心臓の手術後、湯布院集会所で一人療養生活をされている大分教区の神父様をお見舞いしました。久しぶりのカト看の活動です。しっかりと3密を避け神父様を囲んで、持参したお弁当で昼食、懇親会を持ちました。神父様はとても喜んで下さり又の再開を約束しました。

顧問司祭の崔神父様は、教会、幼稚園の運営、コロナ対策などで元気にフル活動されています。9月にはいつものように例会を持ち、新年度のスタートができるでしょう。

おわりに大分支部一同は、一日も早い新型コロナウイルスの終息を祈ります。併せて戦後75年、被爆地広島、長崎の悲劇を心に止め「被爆のマリア様」の御身を通して平安と平和を祈ります。2020年8月

福岡支部 牧山 幸二

新型コロナウイルス感染再燃と豪雨災害に見舞われる中、予定していた活動は1月の例会を最後に休止状態です。熊本では被災した会員もいて、いまだに郵便物がまともに届かない地域もあるようです。新型コロナウイルス感染予防の観点から、ボランティアの受け入れも制限され、思うように片付けが進まない状況なのだろうと思います。私が所属する小教区では、主日ミサ参加者の受付を行い、マスク着用の確認、手指消毒、検温をして聖堂に入ってもらおうにしています。ミサ後の消毒も行っており、後は感染者が出ないように祈るばかりです。この危機をチャンスに変えていく努力が求められているように思います。

広島支部

広島教区の方針に従って、感染予防対策が取られ、行事がつぶれ、奉仕の出番もなくなりました。5月3日の乙女峠祭、召命の集い、6月の地区研修会（医師会と提携して、命をテーマに人見滋樹前医師会長をお呼びする計画）、サビエル高校学園祭、7月の関門保養プロジェクト、8月の平和記念行事、地区交流会などなど。熊本のボランティアに行っていた方も今回ばかりは足止め。会員は所属小教区でミサが安全に後悔されるよう手伝い、職場の高齢者を守るための指導など。8月22日にやっと下関で例会を持ちました。参加は半数です。各小教区におられる外国人労働者に関心を持って、病院受診の付き添いなどしておられる会員に倣い、困りごとはJ-carMとも連携して手伝おう、と話しました。

名古屋支部

現場で働く会員への心身共に降りかかる負担も大きく感じられます。祈りでお支えください。

3月から中止していた定例会は、会員同士繋がりたいと6月からZOOMで再会しています。聖霊病院では開催できず、顧問司祭のご厚意に甘えて神言会神学校を会場にしました。7月は顧問司祭 + 会場参加2 + ZOOM参加3でした。

第59回名古屋大会で作成したグループラインでの情報共有も継続しています。

金沢Gは昨年をもち全員大会されました。素晴らしかった金沢大会を思いつつ名古屋支部からは上方の発信・共有をしていきます。

大阪支部 大阪グループ 向井 定子

沈黙の祈り

歌うことの好きな私は、聖歌は祈り、神様は共にいると思いき、歌えない病気になったら、私は信仰を続けることができるだろうか？と信仰継続に不安を持っていました。今回、新型コロナウイルス拡大により聖歌を歌うことは禁止になりました。しかし、私の信仰は更に深まっています。毎朝20分の聖書と毎日の黙想・霊的聖体拝領の祈り・ユーチューブでのミサ等、沢山の祈りが信仰を深めています。6月から月一回のミサが開始しました。

聖歌は歌いません。でも、もう大丈夫、沈黙の祈りでも、聖霊は私を離さず導いているから。

コロナウイルスは、私たちの毎日の祈りで、神様が善に変えてくださると信じます。

横浜支部

古来、疫病に慄く様は多くの文学作品に著されていましたが、初めてその実情を目の当たりにし改めて人との繋がりとし正しい恐れへの対応を意識し、小さなことの積み重ねに如くものはないと実感しています。長雨による土砂災害は少ないですが、農作物は軒並みダメージを受けて、御殿場では地場農産品をお盆に（変則的に1か月早い10日遅れで迎えます）お供えすることは難しかったです。支部の研修会・黙想会は中止とし、役員会はリモートによる2元中継で実施しました。総会は紙面の予定です。外国籍の方が多い浜松方面では、経済的・社会的な基盤を失い、逼迫した状況に置かれた方々に対し何かできる事は…との提案があり、模索しています。会員については、特に問題のある状況の報告はありません。

東京支部 千田宏子

皆さん最近はいかがお過ごしですか。東京支部は活動止まったままです。

役員は60代以上のメンバーです。聖母病院に集まることも、上石神井修道院に行くこともできず、神父様にもなかなか会えない今日この頃です。病院は患者が減り赤字 ボーナス半分に減らされました。

私は、毎日玄関で、発熱外来のトリアージをしています。ほとんどが、コロナではないかという心配で訪れる人ですけれども、PCR 検査を受けるために紹介状をもらいに来ます。多いときは20人近くいらっしゃいます。8月からはPCR スポットがなくなり、聖母病院からも必要な患者さんにはPCR 検査をできるようになります。(これは公にはしていません)

聖母病院は出産の方がたくさんいらっしゃいますから、コロナの方は入院してもらいたくない、必死で守っている状態です。職員も自己管理、家族の管理で今のところ、一人もコロナ患者を出してはいません。聖母病院は頑張っています！！

シスターに言わせると、「神様に守られているのよ」

札幌支部 臨床体験2題

●□感染病棟勤務の一看護師

子供を預けている保育園へ感染病棟に入院したことを連絡した母親は「コロナ感染関係者が出たのに休園しないのか」と保育園に匿名の電話があったらしいと泣いていた。ある来院者は院内立ち入り制限の検温協力を「うるさい」と職員を恫喝した。同居する父親のデイサービスに感染病棟への転属を報告した看護師は、サービス利用の停止を通告された。本当に怖いのはウイルスではない。

●□看護師 A

職場は、院内感染に伴い恐ろしいほど静まり返った。いつも賑わっている外来は休診となり、電気が消され、電話の回線はパンクした。その光景は、今思い出しても、ぞっとするほど異様な光景だった。

その後、私は微熱で自宅待機となり、気付くと外を眺めて泣いていた。実はコロナが話題になり始めた頃、すでに武漢にいる親戚をコロナで亡くしていた。その時はコロナの恐ろしさを知らず「なぜ家族の面会もままならないまま茶毘にふされてしまったのか」「中国には死者の尊厳がないのか」と憤りを感じていた。

しかし、徐々にコロナウイルスの恐ろしさがわかり、私自身も免疫抑制剤を服用しながら病院で働くことの恐怖と不安を味わい、貴重な患者体験をした。

職場に賑わいは戻ったが、日本国内のコロナ患者は減っていない。国には、迅速な対応を求めたい。また、これからも祈りと共に気を緩めることなく、現場に立ちたいと考えている。

最後に 2020年10月に 全国大会を開催するはずだった新潟支部からです。

新潟支部

+主の平和

皆様、いかがお過ごしでしょうか？

この原稿の依頼がきた時は丁度、九州の豪雨災害があった時期でした。多くの方々が被災し、また亡くなられた方々の為に祈っています。

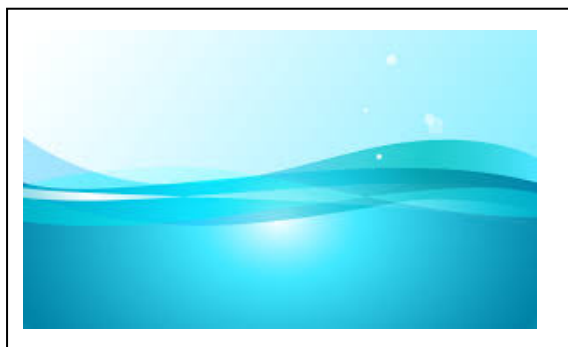
さて、40年振りに新潟県長岡市において、第60回JCNA全国大会を開催する予定でした。本来なら今の時期、参加申し込みの集計をしている矢先でした。ですが新型コロナウイルスの感染が拡がり、全国大会を行う側、参加する皆様、参加前後の感染有無に対し不安を与える事になり得ると感じ、今回の全国大会を本部と相談し延期する事に致しました。また会場予定である長岡教会に於いて2021年9月、成井大介(被選)司教様を迎えての新潟教区信徒大会が行われる予定です。一年に大きな大会を二つ重ねることは、数年前から全国大会の準備が出来ていたとしても会員の皆様を迎えるにあたり、会場準備に混乱をまねいてしまう可能性がある為、2022年までの延期とさせて頂きました。どうか会員の皆様、新潟で行われる大会の為に、もう暫くお祈りして頂けたら私達も力強く嬉しく感じます。

2020年の年明けから、徐々にコロナウイルスが感染拡大してきました。医療機関に勤務している皆様、現場にいなくても医療従事者の皆様から入ってくる情報は大変な事であったでしょう。私達だけではなく教会関係者、カトリックの幼稚園、学校においてまた、その周囲の方々は医療従事者よりも最も不安が大きく途方に暮れたことでしょう。御家族の方や周囲の方々に感染された方や亡くなられた方々もおられた会員の皆様もおられ、大変な状況の中にいたかと感じます。どうか神様から、その方々へ癒しと恵みがありますよう心にとめて祈りたいと感じています。新潟支部(教区)での活動は、会員が所属教会や周辺の教会の状況を見守ることでした。先が見えない感染源・・・。誰がなってもおかしくはないものとなりました。基本的な手洗い後良く拭き取り、アルコール消毒、マスクやうがい等、カト看ができる活動(声かけ、見守り、既往歴等)を続けていき、司祭、信徒の皆様が神経質、不安を与えないように安心してミサに与れるよう、心がけていきたいと感じています。

2022年、第60回JCNA全国大会 in 長岡、会員の皆様、これから入会をしようかと考えている皆様を2020年10月にできる新築の長岡教会で、皆様をお待ちしています。

『ひとりでも多くの方々へ、カト看の事を知って頂きたい!!』という思いで全国大会の準備をしています。

主へ賛美と感謝のうちに。心を込めて +



長崎・高松・京都・仙台 支部は
お休みです。

お知らせ

こうのとりのゆりかご in 関西 電話相談員（第4期）の募集について
～2020年度 にんしんSOS 電話相談ボランティア養成講座～ 案内

こうのとりのゆりかご in 関西の相談員として、悩める母子を支援に必要な
医学知識・社会制度・カウンセリングの語法を具体的・実践的に学ぶ。

開催期間：2020年 9月10日、9月20日、10月15日、10月29日、
11月8日、11月22日、12月10日～12月7日の間の計7回

開催時間：各回 14時～16時

対象者：有資格者、電話相談経験者優遇 定員10名

場所：こうのとりのゆりかご in 関西
〒650-0012

神戸市中央区 北長狭通4-9-26西北信ビル6F

問い合わせ：電話：078-391-5820 FAX:050-3737-0650

申し込み：Mail：kounotori.kansai@gmail.com

※ 新型コロナウイルス対策を取って実施する。

主催：特定非営利活動法人 コウノトリのゆりかご in 関西
お金ではなく皆様のお持ちになっている意欲や経験を活かすことを頼まれています。カウンセリングの基本や、電話相談のシミュレーションを行う、臨床心理士とともに考えるなど、研修は多岐にわたります。この機会に一念発起！！ 未知の世界にちょっと一歩飛び出してご自分の可能性を広げてみたらいかがでしょう・・・

編集後記

2020年が始まって、じわじわと新型コロナウイルスが蔓延し、見えないウイルスに向かっている医療現場にいる方々の働きには本当に感謝しかありません。日々、日常生活の変化に戸惑うことが多いですが、今は自分ができることをやる、何をなすべきかを見極めればそんなに焦ることもないと思います。

みこころのうちに～祈りましょう。

本部 書記 藤井智恵美

